

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会 派 名 (参加者)	みらい砂川 武 田 圭 介
視察・研修名	先進地事例調査研究活動（北海道大学への行政視察）
視察・研修の 目 的	自治体等と北大農学部との連携協定の中身及び締結に至る経緯等について
目 時	平成 29 年 9 月 19 日（火） 午前 10 時から 2 時間程度
視 察 研 修 の 概 要	<p>北海道大学大学院農学研究院が北海道内の各自治体と連携協定を締結することにより、実習の一環として学生をその連携協定を結んでいる自治体の農家に派遣し、その後の北大マルシェという産直市を通じて、生産者ネットワーク構築、地域おこし協力隊への応募、移住・定住、新規就農、農業関係機関への就職などの波及効果を及ぼしているという取組みについて、砂川市でもそれらの取組みに参加することができないのか検討することを目的とした視察である。</p> <p>先進地の事例を含めて、メリット、デメリットや経費、連携協定の中身、その経緯等について、担当教員からのヒアリングを行った。大学としては、既存と同じ事業をさらに拡大していくのは、今の人員体制では難しいとのこと。一方で、自治体側から特定目的の何かテーマが与えられた場合には共同研究や委託研究という形で、似たようなことができる可能性を示唆された。</p> <p>その際には、大学院として社会に貢献できるほどのテーマであることが求められ、単なる農業生産の新品種の栽培方法のようなものだけでは、研究としての位置付けは弱く、例えばスマート農業に代表されるように、農作業の軽労化に資するといった、近未来の農業を維持するために必要となり得るようなものが必要とされた。</p> <p>また、砂川市内の受け入れ体制に対する不安の声として、あくまでも教育研究活動の延長にあるため、それらを抜きにはできないこと。学生の研究意欲を十分に満たしてくれる農家あるいは農業関係者が必要であること。学生たちは単なるアルバイトや農家補助ではないという位置付けの明確化が必要であることなどが指摘された。</p> <p>十分な事前準備もないと連携協定だけを結んでも効果的な機能を発揮することは難しいのではないかという捉え方であった。大学としても自治体との連携を拒絶するつもりはなく、マンパワー不足の解消や具体的な研究テーマになり得そうなものが自治体側から提示されることによって、連携の可能性が高まるという感触を得た。</p> <p>実際には、懸念材料とされる砂川市側の受け入れ準備等が、ある程度整えなければならず、この点については大学との将来的な連携も視野に、現在は、地域おこし協力隊の農業分野での募集など別方法を取り、受け入れに向けての機運醸成などで、当面は対応していかざるを得ないと考える。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	みらい砂川 武田圭介
視察・研修名	先進地事例調査研究活動（東京都大田区への行政視察）
視察・研修の 目的	蒲田駅前図書館の取組について（指定管理制度等も含む）
目 時	平成 29 年 10 月 30 日（月） 午後 2 時 20 分から 2 時間程度
視察研修の 概 要	<p>大田区立蒲田駅前図書館において、医療・介護情報コーナーを設けて、利用者に専門情報の提供を行っている例について、砂川市も市立病院や高齢者見守りなどの医療や介護分野に力を入れていることもあり、教育委員会との連携も視野に入れた取組みを検討することができないかを調査するために視察に行った。</p> <p>太田区立図書館は中央館としての大田図書館の他に 15 か所の地域図書館を持っており、それぞれが指定管理業者に委託されている。その中で、特色ある図書館を打ち出し、利用者の利用促進を図ることを目的とした自主事業が実施されている。蒲田駅前図書館は、医療・介護情報に力を入れることを自主事業に掲げており、平成 29 年度事業としては、大田区介護支援専門員連絡会と連携し、ケアマネージャーによる相談コーナーを設置したり、健康医療政策課との連携事業として、健康料理教室、産婦人科医を講師に婦人科健診に関するおはなし会などを計画していた。</p> <p>医療・介護情報に対する需要があることから、地域課題解決支援の一環として、平成 28 年 7 月より医療介護情報コーナーを設置した。医療・介護情報コーナーの取組みとしては、①専用書架の設置、②調べ方支援、③地域連携事業が三本柱となっており、①については、医療・介護、闘病記等の資料を約 4,200 冊配架し、担当司書による選書を実施している。配架の際には、病名ごとに細かく見出しを設置するとともに、情報の鮮度を明らかにするため、資料の背ラベルに出版年を表示している。</p> <p>②については、担当司書によるレファレンスサービスを行うために、健康医療情報のレファレンス経験のある司書を配置し、利用者のニーズに応えるとともに、内部では、他の司書に向けてレファレンス講師として、全体のレファレンス能力の底上げを図っている。図書館で対応できないものについては、専門機関や窓口サービスの提供を行うことで、地域関連機関との協力体制を構築している。③については、毎月第 2 日曜日に図書館内において、地域で活動するケアマネージャーによる介護相談会の実施や各種イベント、講演会などを関連機関と連携して実施している。</p> <p>砂川市においても、既に市立病院と図書館が連携している部分もあるが、他にも、ふれあいセンターなどとの連携といった、連携の拡大や在り方について検討していくことが今後は強く求められて来るものと考え。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会 派 名 (参加者)	みらい砂川 武 田 圭 介
視察・研修名	先進地事例調査研究活動（長野県上田市への行政視察）
視察・研修の 目 的	地域公共交通（運賃低減バス運行計画等）について
目 時	平成 29 年 10 月 31 日（火） 午前 9 時 30 分から 2 時間程度
視 察 研 修 の 概 要	<p>市街地における高齢者、通勤、通学、諸施設利用者等の交通手段確保のために、様々な施策を通じて公共交通手段を確保・維持しようとして果敢に取り組んでいる交通対策事業先進地としての上田市において視察を行った。</p> <p>「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通の活性化をコンセプトとして、上田市路線バス元気再生計画、運賃低減バス運行計画などを中心に各施策について、担当者から詳細なヒアリングを行った。</p> <p>特に『上田市街地循環バス』については、民間バス事業者 2 社に業務委託して、市街地における高齢者、通勤、通学、諸施設利用者等の交通手段確保のために行われている。それもルートや運行形態を見直しを行いながら、運賃の定額化を図ったことにより、一時的に輸送人員を委託前と比べて大幅に増加させた。その後、安定期に入り、輸送人員が減少しても減少幅を抑えて横ばいとしている。</p> <p>平成 27 年度からは、『まちなか循環バス』を走らせ、さらに利用者のニーズを先取りして、輸送人員の増加に取り組んでいる。まちなか循環バスは、市街地を更にコンパクトにめぐる路線として、生活交通としての利用に加え、まちなかの賑わいの創出、中心市街地の活性化促進のために運行されている。原則、土日祝に運行し、利用者の利便性向上を考え、定期的な時刻表とし、1 周 30 分間隔で午前 9 時から午後 5 時までの運行で、ルートは一方通行で行われる。この運行についても、バス会社に委託している。</p> <p>『運賃低減バス運行計画』については、市内の路線バスがほとんど赤字路線であり、国、県、市の運行補助金を投入しなければ路線維持ができない状況だった。今後の高齢社会を見据え、都市機能として不可欠な路線バスを維持するため、「バスの運行に対する補助」から「乗車する人に対する補助」という発想に転換し、平成 25 年から実証運行を実施した。</p> <p>年間利用者数を 99 万人から 121 万人に増加させることができたが、まだ利用者が少なく、補助金として 2,900 万円支出が出ていることがデメリットであるが、まだまだ利用者の潜在的ニーズがあることを十分に分析して、有効活用できていないのではないかと考えられており、路線バスの利用促進を図るために、更なる取組みを検討・模索しているとのことであった。</p> <p>砂川市とは地域性や人口規模は異なるものの、地域公共交通を巡る課題は同じである。砂川市立病院や商業施設など、市内に人を循環させる施設があるため、上田市の事例などを参考に早急な対策が必要であると考えます。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	みらい砂川 武田圭介
視察・研修名	先進地事例調査研究（長野県塩尻市への行政視察）
視察・研修の 目的	塩尻市立図書館の取組みについて
目 時	平成 29 年 10 月 31 日（火） 午後 2 時 30 分から 3 時間程度
視察研修の 概 要	<p>塩尻市はものづくりのまちとして、精密機械業者の工場が集積していることや、中心市街地の再開発事業において、公共施設の複合化を行った。</p> <p>その際、市立図書館も新施設の核テナントとして入り、ビジネス支援や全国的にも特色ある図書館として、ユニークな図書館運営を行っている。地方においても、人材育成や生涯学習のためにも図書館の機能は重要であり、今後の砂川市における図書館を知の拠点とするために必要な運営手法等について参考にするため視察を行った。</p> <p>新施設の位置付けは、市民交流センターであり、その基本コンセプトを「知恵の交流を通じた人づくりの場」として、知恵と意欲を持つ人が集い、活発に活動・交流することで新たな価値が創造されて、さらに多くの人を引き付ける場へと進化する知恵の好循環を目指しているとされる。</p> <p>塩尻市立図書館は塩尻市立図書館サービス計画を策定し、この基本コンセプトに基づいて、図書館の目指すべき方向として、①役立つ情報を提供する図書館、②意欲と活動を応援する図書館、③進化する図書館を掲げている。このサービスを実現するために、通常の業務体制とは別にサービス事業チームを編成し、実践に取り組んでいる。</p> <p>図書館の特徴としては、配架についても書架を通常より高く設定し、より多くの本と利用者が出会えるように工夫するとともに、意図的な混配を行って分類区分にとらわれず、本と視聴覚資料を同じ場所に配架している。</p> <p>また、原則として複本を所蔵しないこととしている。企画展示やテーマブックスは旬な話題やその時々のもて来事についても行い、常時 20 テーマ程度を実施するようにしている。さらに、ビジネス支援の一環として、3D プリンターを図書館内に設置し、最新のものづくりに興味のある方が、3D プリンターの使い方などを学び、3D プリンターを使った交流ができるように利用サービスの提供も行っている。</p> <p>他にも地域文庫の創設やビジネス情報相談会、PTA 親子文庫など、教育委員会だけではなく、市の他部署並びに民間企業や民間団体などとの連携も積極的に行っていることが明らかにされた。このような取組みを行って、地域の知的好奇心を高め、知恵の交流を図っていくためには、行政主導や行政だけで行うことでは失敗してしまうため、市内の各種団体などとの協議・連携が必要である。特に教育活動にかかる部分は、投資に対する効果が出るまで時間がかかるため、根気強い施策の継続が求められると考える。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	みらい砂川 武田圭介
視察・研修名	先進地事例調査研究（長野県伊那中央病院への行政視察）
視察・研修の 目的	メディカルシュミレーションセンターの設置について、 公立病院における美容外科開設について 病院経営等について
目 時	平成29年11月1日（水） 午前9時30分から3時間程度
視察研修の 概 要	<p>総務省が発表している公立病院改革事例集の中で紹介されている公立病院のうち、砂川市立病院とほぼ同機能、同程度であり、メディカルシュミレーションセンターや公立病院としては珍しい美容専門外科を開設した伊那中央病院に視察を行った。平成28年4月時点での病院概要としては、医師数84名、看護師571名、薬剤師29名、医療技術職員106名、事務職員等113名、その他職員11名の合計914名体制であり、標榜診療科27科、許可病床数394床（感染症4床含む）、高度急性期病床ICU4床、SCU12床、HCU8床、救命救急病床8床、救急ICU2床、小児病棟14床である。</p> <p>メディカルシュミレーションセンターは、基本的な診療技術や看護技術さらに高度な内視鏡手術や血管内治療まで、種々の医療技術が習得できる最新鋭シュミレーターを約40種導入し、内部の医療者だけではなく、外部の医療者の利用も認めることにより、上伊那地域として、多くの医療者のメディカルスキルの向上や人材育成、医療人確保に繋げることを目的として、平成26年6月に開設された。また、公立病院としては珍しく、自由診療となる美容専門外科が開設されており、ここは一般患者の入り口とは別棟に独立した高級感あるような待合等、ここで従事するスタッフの意見を取り入れた内装となっており、充実したスタッフの下に数多くの患者が訪れている。</p> <p>診療報酬改定による影響や病院老朽化に伴っての新病院建設に関わっての経営改善が喫緊の課題であったために、「経費削減」、「収入増・確保」、「人材育成・確保」を基本課題として、平成21年から伊那中央病院経営改革プランを策定し、その後、随時の見直しやブラッシュアップを経て、医療の質の向上、経営の効率化、病院機能の更なるブラッシュアップ、地域の医療ニーズへの対応、職場環境の改善等に関する115項目の課題抽出を行い、定期的に進捗状況や問題点等を確認・検討して、基本理念と基本方針の実現と健全経営に維持に努めた結果、平成21年度から平成27年度まで7年間連続して黒字を達成したという説明があった（視察時に配布された資料は「公営企業」掲載した論稿に基づいている。）</p> <p>医師の確保やモチベーション向上に寄与する研修施設の充実、病院経営における収益確保策の一助となる自由診療を担える標榜科の設置など、その取組みについては、砂川市立病院において参考になるものとする。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	みらい砂川 武田圭介
視察・研修名	先進地事例調査研究活動（新潟県胎内市への行政視察）
視察・研修の 目的	薬用植物の栽培等について
目 時	平成 29 年 11 月 15 日（水） 午前 9 時 30 分から 2 時間程度
視察研修の 概要	<p>農業者の高齢化による休耕地・耕作放棄地の増加が課題となっている。農業の将来性を考え 6 次産業化するにしても、その担い手確保と収益の確保策は相互に関連する事項であるため、付加価値の高い薬草栽培に取り組んでいる自治体の例として、今後の砂川市における新たな農業産品や農産加工品の参考とすることを目的とした視察である。</p> <p>取組みに至る経緯や行政が行った支援、運営上の課題や顕在化した課題、民間機関等との連携、生産農家との連携、現在までの栽培状況や販売実績、新潟県や JA からの支援の有無、栽培、加工、販売等における今後の展望や課題等について、担当者からヒアリングを行った。</p> <p>現状としては、甘草の栽培実証を行ってきたが、低コストかつ安定的栽培にまでは至っていないこともあり、原料としての供給が困難な状況にあること、甘草だけではなく、他の薬用植物の国産化については、課題が山積しているため、国などの機関で技術研究が進められており、まだ産業化には時間がかかるため、現在は、その動向を注視している状況にある。</p> <p>一方で、漢方薬の原料となるためには、日本薬局方の薬効基準をクリアしなければならないが、甘草については栽培実証を全国各地で実施しているとはいえ、その基準をクリアしたのは、胎内市のみであることから、今後の技術研究開発による量産化については期待もしているとのことであった。当初は漢方薬の原材料としての薬草栽培であったが、現状は原材料の供給が不十分であることから、甘草を活用した特産品開発等（お菓子、お茶等）の地域振興に特化したもの変化しているとされる。</p> <p>事業全体に対する今後の展望等については、薬用植物で 6 次産業化を行いビジネスモデルの成立を目指すことを目的としてきた地域再生計画を見直し、現在の状況を踏まえ、地域振興作物として売り出していくためには、まだまだ時間がかかるという認識であった。</p> <p>ある程度、産業化に耐えうる技術が十分に確立されていないものについては、新規性は高くとも、地域産業の活性化に資することは、なかなか難しいことであることや、関係各機関との連携を密にとらなければならないなど、一自治体が単独で事業を実施することに対する負担が大きいことが示されたが、そのニーズはとても強くあることや、北海道が薬用植物栽培を視野に入れた植物工場の建設に対する助成制度などを創設していることから、今後の技術革新による産業化と商業化の期待が高まるものと考えられる。</p>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと